



第4回日本シニア小児科医連盟会議開催にあたり

内容

1. ご挨拶

代表幹事 衛藤義勝

2. 第4回連盟会議について

第4回会長 児玉浩子

3. 抄録

児玉 浩子

藤村 正哲

4. 幹事名簿

ご挨拶

日本シニア小児科医連盟
事務局幹事 衛藤義勝
(財団法人脳神経疾患研究所)

第120回日本小児科学会が慶応大学高橋孝雄教授主催で開催されます。この機会に第4回日本シニア小児科医連盟総会を帝京平成大学児玉浩子教授主催の下に4月15日(土)17:30よりグランドプリンスホテル高輪で開催する運びになりました。

65歳ご定年後のまだまだ活力のある先生方が中心になり、日本小児科学会の折に、毎年総会・講演会・意見交換会を開催しております。

今年ですでに第4回となり、毎年会員も増えております。講演会ではこれまで活躍されてきた先生方のお仕事を中心に人生の生き方までご教示していただける、正に他の講演会では体験できないギュッと凝集した会であります。今回は小児科では数少ない女性代表選手であります帝京平成大学教授児玉浩子先生と永年我が国の未熟児医療に貢献され、国際的レベルまで持ち上げてこられた大阪母子保健総合医療センター名誉総長の藤村正哲先生にご講演頂きます。

この会が更に発展し、少しでも我が国の子どもたちの福祉、健康の増進並びに母子保健の向上に貢献できれば幸いです。多くの皆さまのご参加をお願いします。



【日時】 2017年4月15日 (土)
17:30～21:00

【会場】 グランドプリンスホテル高輪
2階 「撫子」 「鈴蘭」

【会費】 10,000円 (懇親会費込)

第4回 日本シニア小児科医連盟 総会&学術会議
会長：児玉浩子
(帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科 教授)

第4回連盟会議について

第4回会長 児玉浩子

このたび、第4回シニア小児科連盟会議を開催させていただきます。本連盟会議も年々参加者が増えて、喜ばしく思っています。

特別講演は、藤村正哲先生（大阪府立母子保健総合医療センター名誉総長）にお願いしました。藤村先生は長年新生児医療に携わっておられ、同センターはわが国を代表する新生児医療センターで、多くの小児科医も育成されました。近年、臨床研究では多施設ネットワーク研究が進んでいます。その先駆けのお話を伺えると大変楽しみです。

私も、長年携わっている微量元素の最近の進歩として、Wilson病診療ガイドライン2015、亜鉛欠乏症の診療指針、セレン欠乏症の診療指針2016等を紹介したいと思います。先生方にお目にかかり、歓談することを楽しみにしています。ぜひご参加ください。

プログラム

17:30- 受付

17:45-18:30 総会

18:30-19:00 特別講演Ⅰ 児玉浩子

(帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科 教授)

“微量元素（ミネラル）の最近の話題”

19:00-19:30 特別講演Ⅱ 藤村正哲

(子ども療養支援協会)

“新生児臨床研究ネットワークの15年”

19:30-21:00 意見交換会 (グランドプリンスホテル高輪 2階「鈴蘭」にて)

「微量元素（ミネラル）の最近の話題」

帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科
教授 児玉 浩子

抄 録

微量元素は、栄養学的観点から、最近、微量ミネラルと言われている。微量ミネラルの最近の話題として主に下記のことを紹介する。

日本小児栄養消化器肝臓学会を代表団体として8団体編集で「Wilson病診療ガイドライン2015」が発表された。Wilson病は、今もなお、うつ病、統合失調症、脂肪肝、関節リウマチなどと誤診され、すぐに診断されない症例がしばしばみられる。本診療ガイドラインが周知され、本症の診断・治療に役立つことを願っている。

治療乳やある種の経腸栄養剤には、ビオチン、ヨウ素、セレン、カルニチンが殆ど含有されておらず、そのような治療乳等を使用している乳幼児で欠乏症が発症している。私達は、「特殊ミルク・経腸栄養剤使用時のピットホール」（日児誌116: 637-54, 2012）を発表し、注意喚起を行った。その後、母乳代替食品にビオチン、カルニチンの添加が承認された。また、「セレン欠乏症の診療指針2016」が日本臨床栄養学会から発表された。

亜鉛欠乏症はわが国で稀ではない。小児のみならず、妊婦や高齢者も亜鉛欠乏になりやすい。また、糖尿病、慢性肝疾患、慢性炎症性腸疾患、腎不全でも亜鉛欠乏になりやすい。症状も皮膚炎、味覚異常、貧血、性腺機能低下、免疫能低下、発育不全など多彩で、亜鉛欠乏はしばしば見逃されている。啓発もかねて、日本臨床栄養学会のミネラル栄養部会が「亜鉛欠乏の診療指針」を2016年に発表した。

「新生児臨床研究ネットワークの15年」

子ども療養支援協会
理事 藤村 正哲

2003年から厚生労働科学研究「総合周産期母子医療センターネットワーク研究班」では、NICUに入院した1500g未満の極低出生体重児の臨床データを登録するシステムを構築しました。登録数は毎年5,000人余に達しています。出生体重、在胎期間、多胎、母体合併症、性別、先天異常、院外出生を調節した死亡の危険率は、施設間で有意に異なることが分かりました。さらに興味深いのは、ビッグデータを用いることで死亡率に関与する臨床因子の重みを定量できることが分かってきたことです。その方法は死亡だけでなく予後改善因子の解析にも使えます。2003-2009年出生のNICU生存退院率は22, 23, 24, 25週それぞれ38%, 66%, 80%, 86%でした。世界でもっとも高い生存率です。

同じ対象で生存退院児の3歳の予後がまとめられました。フォローアップデータ回収率は58%で、2837例について解析しています。その結果「脳性麻痺(CP)・DQ<70(発達遅滞)・片眼以上の失明または弱視」の合併率は、在胎22週児で「24%・24%・11%」、23週で「28%・21%・8%」、24週で「14%・20%・6%」、25週で「13%・15%・3%」であることがわかりました。世界で初めての大規模な報告です。年次推移をみると6年間でCPのリスクは0.5 (2003年=1) に改善しましたが、DQ<70のリスクは0.97と不変で、発達遅滞の改善がこれからの課題です。

新生児臨床研究ネットワークを中心にこれらの解析を組織的に進めることによって、ハイリスク新生児のアウトカムはこれからもいっそう改善してゆくことを期待したいと思います。

幹事名簿

衛藤 義勝	(財)脳神経疾患研究所先端医療センター長、東京慈恵会医科大学名誉教授
山城雄一郎	順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座教授、名誉教授
安次嶺 馨	沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクター
清野 佳紀	大阪保健医療大学
青木 継稔	東邦大学名誉学長
浅野 喜造	北海道大学大学院獣医学研究科
浅見 直	新潟青陵大学看護学科
阿部 敏明	あしかが森足利病院
泉 達郎	大分大学医学部小児科学講座
伊藤 進	香川大学名誉教授
上田 一博	医療法人三生会 みちがみ病院
植地 正文	東京福祉大学社会福祉学部
内山 聖	新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院
衛藤 隆	東京大学名誉教授
遠藤 文夫	くまもと江津湖療育医療センター
大関 武彦	浜松医科大学名誉教授
太田 孝男	琉球大学大学院医学研究科育成医学講座
大野 耕策	独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院
岡田 真人	聖隷福祉事業団法人本部
岡田 知雄	板橋区医師会病院小児科
小田 慈	岡山大学名誉教授・特命教授
金子 隆	すずき小児科
児玉 浩子	帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科
小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校
近藤 直美	平成医療短期大学
佐々木 望	埼玉医科大学 かわごえクリニック
城 宏輔	すずき小児科 院長
杉本 徹	京都府立医科大学名誉教授
高田 五郎	仙台オープン病院
高橋 弘昭	千葉市療育センター
高柳 正樹	帝京平成大学教授
武田 英二	徳島健祥会福祉専門学校
谷澤 隆邦	たにざわこどもクリニック 院長
土屋 滋	東北文化学園大学学長
寺崎 智行	岡山赤十字病院
戸苅 創	名古屋市立西部医療センター 新生児 医療センター
富和 清隆	東大寺福祉療育病院
中村 肇	阪神北広域救急医療財団
仁志田博司	東京女子医科大学名誉教授
白幡 聰	北九州八幡東病院
濱岡 建城	京都府立医科大学大学院医学研究科 小児循環器・腎臓病学
浜崎 雄平	佐賀整肢学園からつ医療福祉
早坂 清	山形大学小児科前教授
福永 慶隆	日本医科大学名誉教授
船戸 正久	大阪発達総合療育センター

- 古川 漸 実践女子大学生生活科学部食生活科学科
 星加 明德 北新宿ガーデンクリニック
 細谷 亮太 聖路加国際小児総合医療センター
 堀内 勁 聖マリアンナ医科大学名誉教授
 松石豊次郎 聖マリア病院小児総合研究センター・レット症候群研究センター長
 松尾 雅文 神戸学院大学総合リハビリテーション学部
 真弓 光文 福井大学
 三池 輝久 兵庫県立リハビリテーション中央病院
 満留 昭久 学校法人高木学園 福岡国際医療福祉学院
 宮田晃一郎 社会福祉法人たちばな会オレンジ学園
 麦島 秀雄 川越予防医療センター・クリニック所長
 村上 睦美 東京都予防医学協会 保健会館クリニック
 森川 昭廣 北関東アレルギー研究所
 横田 俊平 東京医科大学医学総合研究所客員教授
 吉岡 章 奈良県立医科大学名誉教授
 芳野 信 久留米大学高次脳疾患研究所
 伊予田邦昭 福山市こども発達支援センター
 井上 謙吉 医療法人 日吉いのうえ小児科院長
 雨宮 伸 埼玉医科大学病院教授
 永井利三郎 大阪大学大学院医学系研究科保健学教授
 河 敬世 大阪府立母子保健総合医療センター
 河野 斉 福岡徳州会病院小児科 院長
 河野 陽一 千葉労災病院 院長
 桑原 正彦 桑原医院 院長
 黒田 恭弘 徳島大学名誉教授
 小川 實 小川クリニック 院長
 松平 隆光 日本小児科医会会長
 西 美和 三原赤十字病院小児科 名誉院長
 大澤真木子 東京女子医科大学 名誉教授
 中畑 龍俊 京都大学iPS研究所 教授
 津留 徳 つるのぼるクリニック小児科
 藤村 正哲 子ども療養支援協会理事
 飯沼 一宇 NPO法人「子どもの村東北」理事長
 浜本 芳彦 浜本小児科 院長
 別所 文雄 日本医療科学大学保健医療学部 教授
 保科 清 山王病院小児科
 門田 正担 春野うららかクリニック
 柳澤 正義 国立成育医療研究センター名誉総長
 加我 牧子 東京都立東部療育センター院長
 重松 陽介 福井大学客員教授
 村田 光範 和洋女子大学保健センター教授
 原 光彦 東京家政学院教授
 朝山光太郎 東京家政学院大学教授
 熊谷 公明 医療法人社団 葵の園・ヨコハマ瀬谷
 百井 亨 公益法人 丹後中央病院小児科
 杉江 秀夫 常葉大学保健医療学部学部長

